

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

開会年月日時刻

令和7年2月7日（金） 午後3時30分

閉会年月日時刻

令和7年2月7日（金） 午後4時37分

会議の場所

館林市役所 501AB会議室

会議次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 協議・調整事項
「館林市教育環境に関するアンケート」結果報告及び今後の計画について
- 4 その他
- 5 閉会

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>出席者</p>	<p>館林市長 館林市教育委員会 教育長 教育長職務代理者 委員 委員 委員</p> <p>多 田 善 洋 川 島 健 治 栗 原 昇 井 上 美智子 堀 口 哲 哉 木 戸 浩 之</p>
<p>説明等の ため出席 した者</p>	<p>(事務局) 政策企画部長 教育次長 秘書課長 企画課長 教育総務課長兼学校給食センター所長 学校教育課長 教育総務課 総括係長 書記</p> <p>吉 田 智 之 戸 叶 俊 文 関 口 和 之 新 井 孝 行 木 村 和 好 平 井 智 久 荒 川 博 一 横 山 瑠璃子</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長	<p>定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第1回館林市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>(午後3時30分)</p> <p>それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。はじめに、会議の招集者であります多田市長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
市長	<p>皆さんこんにちは。教育長をはじめ、教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、心より感謝を申し上げます。本日の議題は、「館林市教育環境に関するアンケート」調査の結果概要の報告と、今後の計画についてを取り上げさせていただきました。少子化をはじめとした子どもたちを取り巻く教育の諸課題におきましては、教育環境の維持・向上を図るため、そして適正な学校規模・学校配置について検討するため、令和4年度から継続して協議いただいております。</p> <p>総合教育会議は市長と教育委員会とが情報の共有を図り、意見を交わす大切な機会でございます。皆様と忌憚のない意見交換をさせていただきたいと考えております。</p> <p>本日の会議が実りあるものとなるよう皆様のご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。続きまして、会議に入らせていただきます。ここからは、館林市総合教育会議運営要綱第3条の規定に従いまして、多田市長に議長を務めていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、これより議長を務めさせていただきます。なお、今後の進行に際しましては着座にて失礼いたします。お手元の次第をご覧くださいと思います。3 協議・調整事項に入ります。</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>「館林市教育環境に関するアンケート」結果報告及び今後の計画についてを議題とします。こちらにつきまして、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局からお願いいたします。</p>
<p>教育次長</p>	<p>「館林市教育環境に関するアンケート」結果報告及び今後の計画について、協議・調整事項とした理由を申し上げます。</p> <p>令和4年度の総合教育会議では、「公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題」を議題とし、少子化に伴う1学年1学級化や、少人数クラスの弊害に対する懸念などについてご協議いただきました。さらに、令和5年度第1回の総合教育会議では、これら課題への対応について他市の先進事例を基に、様々なご意見を頂戴いたしました。</p> <p>そして前回、令和5年度第2回会議の結論といたしまして、基本方針等の策定と、そのための体制づくりとして審議会等が必要だということ、また、課題の共有、そしてご意見を伺うために広くアンケート調査を実施することでまとまった次第でございます。</p> <p>本日は、昨年9月に実施したアンケート調査につきまして、結果概要をご報告・共有させていただくとともに、それらを踏まえて教育行政の今後についてご協議いただくため、議題とさせていただきました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、関連する資料が用意されていますので、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>「館林市教育環境に関するアンケート」結果報告及び今後の計画について</p> <p>(別紙資料に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>資料について、3つの大きな枠組みで結果の概要説明がありました。1つ目は、通学環境について。2つ目は、学校規模について。そして</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>3つ目は、多様な学校のあり方についてです。これら3つの視点で、委員の皆様からご意見等を伺いたいと思います。まず、通学環境の結果について、ご意見等ございますか。</p>
栗原委員	<p>1万人規模のアンケートということですのでい規模だなという思いです。そして、多岐にわたる調査項目と詳細な分析が非常に参考になりました。通学環境はおおむね30分以内を許容範囲とする意見が多いということですが、裏を返せば30分を超えてしまうと厳しいと思っ ていらっしゃる方が多いのかなと感じます。</p> <p>私も小学校に勤めていましたが、45分以上かかる地域がいくつかの小学校区で見られます。通学手段等でスクールバス等を挙げている方もいらっしゃるのですが、全員にというわけにはいきませんが、例えば45分以上かかる地域にバスを、すぐ導入するというわけではなく、検討することも1つの手段かと思えます。特に、小学校低学年からすると夏の時期、午後2時頃などに帰ると非常に暑くて、途中で倒れないかと心配になることがあります。児童の中には途中の木陰で水筒の水を飲んで少し休んでいることなどもあるので、45分上かかる、あるいは何キロと具体的にはわかりませんが、一定以上の距離がある地域にはスクールバスの導入を検討課題にしてはどうかと、アンケート結果を見て思いました。</p> <p>関連しての質問ですが、もしスクールバスを1台導入するとなるとどの程度費用がかかるのでしょうか。</p>
教育総務課長	<p>概算であっても想定しなくては費用が出てこないものですので、実際のところ算出していないというのが現状でございます。ただ、隣の板倉町が小学校4校を2校に統合した際の資料を拝見したことがあります。それによりますと、板倉町はスクールバスを委託しております。経費等は度外視してもおおむね年間3千万円以上かかっております。それを何箇年かの契約で、朝と夕方運行していると確認したことがあります。以上でございます。</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

栗原委員

すごい金額ですね。アンケート結果を見ると、導入を少し検討してもよいかと思いました。

井上委員

私もアンケート結果を拝見して、皆さんそれぞれ納得しながら現在通学をされているのかなと感じました。現在は子どもたちの安全面を第一に考えて通学路を指定していて、時には集団登校や危険とされる箇所に保護者や地域の皆さんが立って見守りながら通学していると思います。これから少子化になって保護者やボランティアの数も少しずつ減っていく中、群馬県のような車社会では、やはり子どもたちの安全面を考えるとスクールバスという手段も考えなくてはならないと思いました。

アンケートの中には、保護者等の送迎という回答も割とありますね。雨の日などの送り迎えは特別なことではなく日常的に行われていることですし、保護者の送迎も視野に入れながら通学について検討していく必要があるのではと思います。

市長

ありがとうございました。続いて、クラス人数や学級数といった学校規模について、保護者委員としてのお立場から、堀口委員いかがでしょうか。

堀口委員

私の子どもが通っている学校も全学年大体2クラスですが、アンケート結果を見るとやはりクラス人数は21～30人程度、学級数も3クラスをちょうどよいとする回答が出ています。館林市内においても地域によって様々な要素が絡んでいたり、それぞれの課題もあつたりしますので、児童や生徒の教育環境については改善等の視点で考えることが一番大切なのではないかと思います。

また、児童生徒の心身の状況によっても、小規模特認校を選んだり、最近増えている支援学級のお子さんもいらっしゃるので、そういった方々が希望する場合に柔軟な対応ができるような配慮ができればいい

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

木戸委員	<p>いのではないかと思います。</p> <p>結果を拝見した中で質問なのですが、4ページのクロス集計表の中で、小学校で現状のクラス人数を36人以上として回答している児童がいます。実際に36人以上のクラスがあるという認識でよろしいのでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>先ほど教育総務課長からご説明がありましたとおり、「ニューノーマル GUNMA CLASS PJ」によって群馬県下では全て35人以下の学級になっています。36人以上というのは、もしかすると学級が成立するのが4月7日なのでその日を過ぎてから転入生がいれば36人学級になることもありえますが、学期始めとしてはどの学級も35人以下になると思います。</p>
木戸委員	<p>ありがとうございました。参考資料では36人以上の学級はないとのことでしたので、このアンケート結果を見て少々疑問がありました。学級規模についても現状と同程度をちょうどよいとする方が多いのかなと感じました。中でも1学級や2学級の小中保護者に関しては現状については少ないと考える方が多いので、やはり3学級が望ましいのではないかと思います。多くの児童生徒と友達になりやすい、ある程度の規模の中でクラスメイトになりやすいですとか、何らかのトラブルがあった時にクラス替えの必要性を考えたり、体育祭や運動会等の学校行事においても一定の規模がある方が望ましいのではないかと私自身思います。</p>
井上委員	<p>保護者の立場からの意見ですが、もし自分の子どもが不登校や様々な事情があって心配を抱えていれば、やはり小規模できめ細やかな人間関係が深まる学校で学ばせたいと思いますし、もし活発で学ぶ意欲があつてどのようなことも挑戦したいと考える子どもであれば、大きな学校で切磋琢磨させながら育てたいと思うのは保護者として当然の</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>教育長</p>	<p>希望だと思います。小規模校の中にも大規模校に通わせたいという保護者もいれば、逆に大規模校の中にも小規模校に子どもを通わせたいという保護者もいるのではないのでしょうか。</p> <p>ですので、もう少し柔軟な考え方をさせていただいて、館林市独自の、ほかに誇れるような教育環境をつくり上げていただければと思います。</p> <p>大規模な学校の中でもし不登校になった場合には小さな学校できめ細かく見てもらえたら、といったお話がありましたが、現在第四小学校では人数が少ないということもありまして、館林市内のどこから通ってもいいように小規模特認校制度を採用しております。なかなか大きな集団だと力を発揮できないようなお子さんが通ってきておりまして、全体のうち2割程度はこの制度を利用しております。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>現在、第四小学校には56名の児童がおります。そのうち、約3分の1である16名の児童が学区外から通っている状態です。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>教員側からすると、1クラスのまま6学年で、というのは厳しい面があります。初任者や臨時の方は低学年に配置するのですが、1人で教材研究をしたり、生徒指導のやり方を考えなければなりません。もちろん、小学校3年生に配置されれば4年生担当の方と組みますが、それでも教材研究は1人でやらなければなりませんし、保護者対応も1人です。そういった点からすると、あってはならないことですが教育の質が落ちてしまって、それをほかに相談することもできないという状況になります。保護者には申し訳ないのですが、質の点ではなかなか保障するのが難しい現実があるので、私は1クラスで6学年続くことは教員側からすると避けた方が良いのではという意見です。</p>
<p>市長</p>	<p>これまでは、どちらかといえば児童生徒の立場からの意見もありましたが、世間のニュース等を見ていると教員のなり手不足や少人数の学</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>校になると管理職がフォローする現場もあると聞きます。教員を取り巻く環境も随分変わってきているなど感じます。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>付け加えますと、小規模校では1人の校務分掌が非常に多くなります。やることはどの学校でも全て同じですが、例えば教科主事などは小規模校の場合ですと1人で2つや3つ校務分掌を持たなければならないこともあります。世間的には小規模校へ行った方が楽に見えるかもしれませんが、逆に小規模校へ赴任した教員の方が負担が大きく、休みなども取りにくいという環境もあるので、やはり6学年持ち上がりというのは厳しいと感じます。</p>
<p>市長</p>	<p>視点は変わりますが、教員の働く環境が昔と違っていることも教育環境の現状の1つだと思います。</p> <p>それでは、多様な学校のあり方についてはいかがでしょうか。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>児童生徒数の減少等についての資料を配布した上でアンケートを実施したということで、おおむね肯定的な意見が多かったというのはあったと思います。私自身もそういったものはやむを得ないかと感じています。その上で問題になってくるのは、通学手段などではないでしょうか。小学生や中学生の心配な点として、アンケート結果の中では大きく環境の変化と通学問題の2つに分けられると思います。環境の変化というのは心の問題なので、当然慎重に対応しなければならないと思いますが、ある程度限られた期間の問題ではあります。通学の問題については、先ほどスクールバスのお話が出たように安全面にも関わってきます。今後ますます少子化が進んだ時に、第一段階としてその先を見越した上で学区や通学方法の見直し、スクールバスの導入なども考えていかなければならないと思いました。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>木戸委員がおっしゃっていたとおり、アンケート結果は肯定的な意見が多かった印象でした。学習面であったり、友人関係、更には先生方</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>の意見にあった地域の関わりなど、そういった面でも本市の実情に応じた学校づくりが必要なのではないかと思います。現在各学校で行っている独自の取組、農業体験やさつまいも作り、伝統芸能継承など、地域の方々が関わった上で育っていく子どもたちがいて、その子どもたちが大きくなったらまた地域に根差して自分たちが体験したようなことをしてもらえることが、本市にとって良いのではないのでしょうか。それぞれの学区や状況に応じて臨機応変な対応が必要ではないかと感じます。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>確かに、小中一貫や統廃合について肯定的な意見が多いなという気がしました。学校に望むこととして、保護者は子どもの居場所づくりとしての場を望んでいるという意見が多かったですが、裏を返せば一貫校や統廃合をする際はそういった学校をつくっていかないとならないのかなと、単に学力向上に重きを置くのではなく、居場所をつくることも子どもたちにとって望ましいかなと思いました。</p> <p>アンケートには2割程度反対意見もありますが、その理由まではわからないのでしょうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>本日の資料は結果概要ですので載せておりませんが、報告書本編の方ではその理由を記載しております。例えば小中保護者における小中一貫教育の反対理由ですが、多いのは人間関係が固定化しやすいというものです。更にいえばいじめなど、そういったところで環境が変えにくいという点を危惧しているようです。市民も同様に、人間関係が固定化しやすいと考えている方が多く、中高一貫教育の反対理由についてもやはり人間関係を理由とする方が多いです。</p> <p>統廃合の反対理由は小規模でもよいのではないかといった考え方があったり、通学時間や距離などを心配だといった複数の理由が多くなってきております。これは保護者の方の意見です。市民の方の反対理由では、通学手段が一番多くなっております。</p> <p>先ほどの概要でもお話ししましたが、心配な点ではやはり通学手段を</p>

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長 危惧している傾向が強いと思われます。また、小中一貫教育や中高一貫教育では人間関係が固定化してしまう恐れがあることを心配していることがこのアンケートの結果ではわかっております。

市長 それでは、最後に川島教育長からお願いします。

教育長 皆さんから貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。多くの方が通学時間の許容範囲について30分以内を選んでおりました。平成27年に文科省が公表したガイドラインによりますと、小学生は4キロ以内、中学生は6キロ以内を一つの目安としています。ですが、4キロ以内を徒歩でとなると大人でも1時間程度かかると思います。群馬県は車社会であることに加え、夏の暑さのこともありますので、車での送迎で学校に通っている子どもたちもかなりの数おります。そういったことからやはり子どもの中の許容範囲は60分ではなく、短めの30分になってきているのかなと感じた次第です。先ほど栗原委員がおっしゃったように、私が担任をしていた頃は45分かかるといふ子も確かにたくさんいたと思いますが、現在はそういう遠い場合は車で送迎するご家庭が多いという印象です。通学手段についても安全面や防犯上、そして夏の暑さといったことを考えると、1時間近く歩かせるのはいかなものかという思いもあります。今年度も校長会において、暑い日は日除けとして黄色い傘を差して帰ることをお願いしたこともありましたが、そういったことも考えていかなければならないと思いました。

2つ目の学校規模について、21～30人又は31～35人、広く捉えて21～35人とすると、大体の方はそのくらいの規模がちょうどよいという回答でした。先ほどの通学環境もそうですが、現状の部分でちょうどよいとして肯定的に受け止めている方も随分いらっしゃるなど、結果を拝見して感じられました。ただ、20人を切る規模の保護者の方で少ないと捉えている方が10人以下のクラスで4.2%、20人以下のクラスで42.5%ということで、数としてはこちらも

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

結構多いなと感じます。現状をちょうどよいと考える傾向が全体的にある中でも、少ないと考えている方も多いということも感じました。また、学級数についてですが、7ページを見ますと1学級に所属されている106名、2学級に所属されている500名は、少ないと捉えている方がかなりの数いらっしゃいます。やはり3学級、又は中学生ですと4学級がちょうどよいと捉えているのかなとわかりました。あわせて、クラス替えがあるかどうかという点が大きな要素になっているように思います。

そして3つ目の多様な学校のあり方について、統廃合についてはおおむね4割が賛成の一方、反対が2割強となっております。ここで疑問に思ったのは、学級数については2学級以上が望ましいとする方が大多数でしたが、統廃合となると反対の方も一定数いらっしゃるという点です。これは推測ですが、2学級以上を維持するためには統廃合や学区の見直しをしていかなければ難しいということがうまくリンクしていないのではないのでしょうか。統廃合については感情的に反対だけれど2学級以上がいい、これは不可能になってきております。そのことをうまく周知することが必要なという印象を持ちました。

1万人近い方を対象にしたアンケートということで、まだ仮称ですが来年度以降に審議会でご審議される方々にとっても非常に貴重な資料になったと思います。20年後、30年後の館林市を担っていくのが今の子どもたちになりますので、子どもたちの学びや学校生活というものを第一に、適正な規模・配置等について検討していただければありがたいなと思います。

あと一点、小中一貫教育や中高一貫教育についてはわからないと答えた方がかなりの数いらっしゃることを考えると、どういったものか具体的にイメージできるまで説明する必要があるのではないのでしょうか。そこまでするのは大変なことだと思いますが、話題になる時にはご理解いただけるようにそういった点を十分に説明する必要があると思います。

令和6年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長

皆様、大変貴重なご意見をありがとうございました。

今回のアンケート調査では、児童生徒、保護者、教職員、そして市民の皆様から多くのご意見を伺うことができました。アンケート調査としては9,000人を超える対象者ということで、非常に大規模な調査で、本市の教育行政にとっても大変重要な資料になったと思います。

総論で賛成であっても、各論に入って具体感があると様々なご意見が出てくることもあります。ただ、大切なことは、著しい環境変化の中でも子どもの将来を第一に考えることであり、私自身、子どもの成長過程を担う教育機関として多くのことを考えていかねばならないと感じます。そのような中で、学校の適正規模・適正配置の基本方針等の策定についても審議会主導のもと、迅速に取り組んでいく必要があると改めて考えております。

今後も本市の教育環境の更なる充実が図られるよう、市長部局と教育委員会事務局が一体となって、しっかりと子どもたちの未来を見据えた教育施策の推進に努めてまいりたいと思います。

皆様のご協力をもちまして、無事、全ての議題を終えることができましたので、これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。

教育総務課長

長時間にわたり、大変ありがとうございました。

次第の4に「その他」とあります。何かこの場でお話ししておきたいことがある方はいらっしゃいますか。

(委員等から「なし」の声あり)

教育総務課長

以上をもちまして、総合教育会議の全日程を終了いたします。
ありがとうございました。

(午後4時37分)